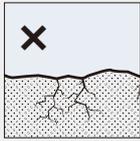


# 施工法

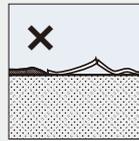
## 下地のチェックと適合性

床材の施工は、床下地の状況に大きく左右されます。  
 床下地の種類・条件によって、施工方法・接着剤の種類が異なる場合があります。  
 施工前の床下地のチェックは、新設・既設を問わず床施工にとって重要なポイントとなります。

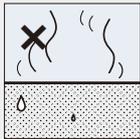
### モルタル・コンクリート下地の施工前チェック



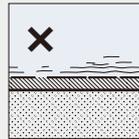
**平滑度**  
 床面を平滑に仕上げるためには、コテムラ、凹凸、クラックの有無のチェックが必要です。



**汚れ**  
 床面の接着不良や着色・汚染を防ぐためには、溶剤や塗料などが付着していないかチェックが必要です。



**乾燥度**  
 床面の接着不良や剥離を防ぐためには、下地の湿気・残留水分などのチェックが必要です。(含水率8%以下※)



**表面強度**  
 床面の接着不良を起こさないためには、下地表面のレイタンスなどのチェックが必要です。

#### ※下地含水率測定判断の目安

高周波静電容量式水分計 HI-520、HI-520-2 (株) ケット科学研究所製) を使用した場合、下地含水率の目安は右記のとおりです。

設定条件		下地:コンクリート・モルタル・セルフレベリングの場合	下地:コンクリートの場合
		Dモード(ダイレクトモード)、厚さ40mm、温度AUTO	コンクリートモード、厚さ40mm、温度AUTO
従来の	8%以下	440未満	4.0 未満
下地水分指標	10%以下	620未満	5.0 未満

### その他の下地の施工前チェック

- 木質下地…………… たわみ、反り、目地の段差・開きがないか。
- 金属下地…………… さびが発生していないか、また防錆処理が施されている場合はその塗料の種類は何か。
- セルフレベリング下地 …… レイタンスはないか、また表面強度の度合い。(石膏系はセメント系と比べて強度が弱いため注意が必要)
- テラゾー下地…………… 破損、汚れ、ワックスの付着、不陸のチェック。
- 塩ビ床下地…………… 硬さ、平滑度、汚れ、ワックスの付着、破損のチェック。(クッションフロアや、表面にエンボスがある場合は施工不可)

### 床材と下地の適合性

商品名	下地 (○:施工可能 ×:施工不可)						
	モルタル コンクリート	塩ビ床 ※1	タイル ※2	合板 ※3	鉄板 ※4	床暖房	
						コンクリート モルタル埋設方式	合板捨貼り工法 (ガス温水マット方式など)
アンビانس	○	×	×	○	×	×	×
コネクションコーロン	○	○	○	○※5	○	×	×
ニューテッセラコーロン	○	○	○	○※5	○	○	○
アルトロセーフティフロア	○	×	○	○	○	○	×
アルトロアクエリアス	○	×	○	○	○	○	×
レックスコート	○	○	○	○※6	○	○※7	○※7
レイジャー4.0	○	○	○	○※6	○	○※7	○※7
カルムパッソ	○	○	○	○	○	○※7	○※7
ノラブラン	○	×	×	○	×	×	×
ノラメント	○	×	×	○	×	×	×
スポールゴムタイル	○	×	×	○	○	×	×
ファストラ	○	○	○	○	○	×	×

- ※1 既存床の汚れ・ワックスは完全に除去してください。また、下地に完全に接着して表面が平滑になるよう施工してください。なお、既存床がクッションフロアや表面にエンボスがある場合は施工できません。
- ※2 タイル表面についたワックスや汚れは完全に除去し、下地調整剤で表面処理し平滑に仕上げてください。
- ※3 根太のピッチが30cm以内で、JAS耐水1類合板12mm厚×2枚の強度があるようにしてください。
- ※4 さびや汚れなどは完全に除去してエポキシ樹脂系接着剤(スポールゴムタイルはウレタン樹脂系接着剤)を使用してください。なお、防錆塗料の種類によっては接着不良の原因となりますので事前に確認してください。(ファストラは置敷き嵌合タイルのため接着剤は不要です。)
- ※5 根太を組む場合は、※3を厳守してください。下地のたわみが原因で、床材の層間剥離などを引き起こす可能性があります。キャスター走行の激しい場所などでは、特に注意してください。
- ※6 鋼製材下地の場合の合板は、JAS耐水1類合板12mm+15mm厚各1枚もしくは、15mm厚×2枚の強度があるようにしてください。
- ※7 レックスコート、レイジャー4.0、カルムパッソは長時間放熱の妨げになるもの(ふとん・カーペットなど)を置くと変色するおそれがありますのでご注意ください。

## 接着剤の選定と施工方法

### シート床材

施工方法 商品名	標準	耐湿	耐水(耐熱)	床暖房		方向性 (下図参照)
	全面接着施工 (目地溶接)	全面接着施工 (目地溶接)	全面接着施工 (目地溶接)	モルタル埋設方式	合板捨貼り工法 (ガス温水マット方式など)	
				全面接着施工 (目地溶接)	全面接着施工 (目地溶接)	
アンビانس	SA-901 ※1	SU-502	SU-502 または SE-103			方向性なし
コネクションコーロン	SA-901 ※2	SU-502	SU-502 または SE-103			①
ニューテッセラコーロン	S-235P ※2	SU-502	SU-502 または SE-103	SU-502 または SE-103	SU-502 または SE-103	①
アルトロセーフティフロア アルトロアクエアス	SU-502 または SE-103	SU-502 または SE-103	SU-502 または SE-103	SU-502 または SE-103		①
レックスコート	SA-901	SU-502	SU-502 または SE-103	SU-502 または SE-103	SU-502 または SE-103	②
レイジャー4.0 カルムパツソ	SA-901 ※1	SU-502	SU-502 または SE-103	SU-502 または SE-103	SU-502 または SE-103	②
ノラブラン	SA-901					②

※1 病院・高齢者施設の居室などで双輪キャスター式ベッドの使用が想定される場合は、SU-502またはSE-103を使用して施工してください。

※2 シートのはがれを防ぐため、目地溶接ができない端部(壁際や階段踏面など)はSU-502またはSE-103を使用して施工してください。

#### ① リバース施工をしてください。



※アルトロセーフティフロア、アルトロアクエアスを施工の際、骨材密度に差がある場合は隣合わせのシートの骨材密度をできるだけ合わせてください。

#### ② 同一方向で施工してください。



※レックスコート、レイジャー4.0の木目柄はシート両端部(ミリ部分)の板幅がカタログ記載寸法より短い場合がありますので、割付の際はご注意ください。

※カルムパツソはシート両端部(ミリ部分)を必ずカットして使用してください。

※床暖房下地における施工はお問い合わせください。

※使用する接着剤は所定のオープンタイムを厳守してください。速乾接着剤は、いかなる場合も使用しないでください。

⚠ 専用接着剤には有機溶剤を含む商品があります。施工前に必ず商品に貼付のラベルやSDS等に記載の注意事項をお読みのうえ、正しく安全に施工してください。

### ノラゴムタイル

施工方法 商品名	標準
	全面接着施工
ノラメント	SU-502

※ノラメントの自動車整備場における施工はお問い合わせください。

※使用する接着剤は所定のオープンタイムを厳守してください。速乾接着剤は、いかなる場合も使用しないでください。

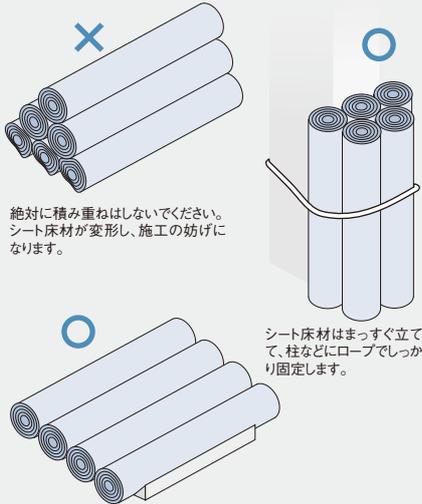
⚠ 専用接着剤には有機溶剤を含む商品があります。施工前に必ず商品に貼付のラベルやSDS等に記載の注意事項をお読みのうえ、正しく安全に施工してください。

# 施工法

## シート床材

### [施工の前に…]

- 乱雑な積み込み、積み降ろしはしないでください。床材を落としたり、放り投げたりした時の衝撃は床材破損の原因となります。冬期は特に注意してください。
- シート床材は雨に濡れる場所で保管したり、冬場の屋外放置はしないでください。現場では屋内の指定場所に保管してください。シート床材をロールのまま保管する場合は、必ずロープで固定し、垂直に立て掛けた状態で保管してください。寝かせた状態で長期保管すると接地面が変形するおそれがあります。



シート床材を立てることができない場合は、平らな場所に並べて置き、歯止めをしてください。

- 施工時は周囲の温度を15℃以上に保つようにしてください。13℃以下になると床材が硬くなり貼り込みやカット作業がしにくくなります。
- 接着剤を使用する時は部屋の換気を十分に行ってください。

### [下地のチェック]

シート床材の施工は、床下地の状況に大きく左右されます。床下地の種類・条件によって、施工方法・接着剤の種類が異なる場合があります。(P.73~74参照)

### [各商品についての注意事項]

#### アルトロセーフティフロア・アルトロアクエアス

- シート中の骨材密度の差により多少色調が異なります。骨材密度に差がある場合は、隣合せのシートの骨材密度をできるだけ合わせてください。
- 厨房・トイレ・介護浴室など水を使用する場所へ施工する際は、壁際は巻き上げ処理をし、グレーチング廻りなどはPVCアングル (P.77参照) を必ず使用してください。

#### レイジャー4.0・カルムパツソ・アンビانس

- 病院・高齢者施設の居室等で双輪キャスター式ベッドの使用が想定される場合の接着剤は、SU-502またはSE-103を使用して施工してください。

#### コネクションコーロン・ニューテッセラコーロン

- 壁際まで床材を貼り込む際、巻き上げ処理や幅木の取付をしない場合は、水やホコリがシート裏面に入らないようシーリング処理などを行ってください。
- シートのはがれを防ぐため、目地溶接できない端部(壁際や階段踏面など)の接着剤は、SU-502またはSE-103を使用して施工してください。

#### ノラブラン

製品の特性上、ノラブランを巻き上げ施工する際は、15R以上の面木を使用してください。

## 1. 仮敷き

シート床材を2枚以上施工する場合は、敷き込みの前に仮敷きをし、色調・柄の差が出ないように確認・調整してください。色調・柄の差が大きい場合は、施工前にお問い合わせください。

※冬場は特に床材が硬直し巻き癖が取れにくくなりますので、施工前に周囲の温度を15℃以上に保ち、床材を仮敷きし、床表面が平滑になるようよくなじませてください。

ニューテッセラコーロンは仮敷きできません。ご注意ください。

## 2. 貼り込み方向

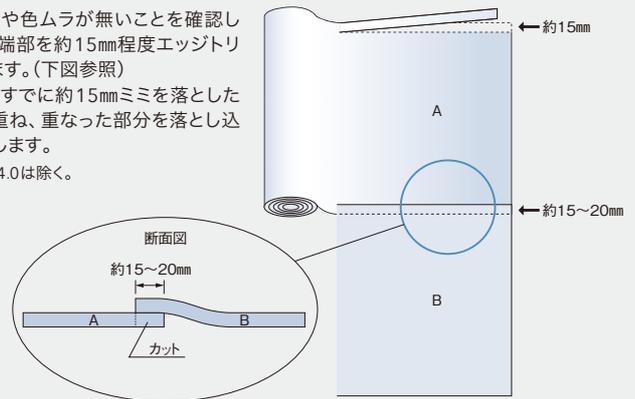
シート床材には方向性があるものがあります。施工する際は柄の流れを所定の方向に合わせて(P.74参照)施工してください。

## 3. シート床材のカット

シート床材を広げ、割れや色ムラが無いことを確認した後、シート床材の片側端部を約15mm程度エッジトリマーなどでミミを落とします。(下図参照)

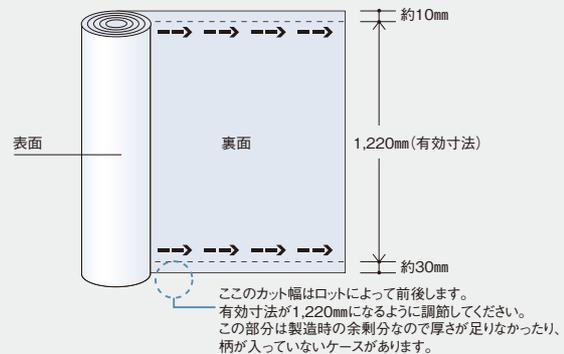
次の隣合わせのロール(すでに約15mmミミを落としたもの)を15~20mm程度重ね、重なった部分を落とし込み用工具を用いてカットします。

※レックスコート・レイジャー4.0は除く。



### [ノラブランの場合]

ノラブランを広げ、割れや色ムラがない事を確認した後、シートの左右両端部をカットします。カットはロール下端を30mm、上端を10mmエッジトリマーなどでミミ落としします。(下図参照)



## 4. シート床材の接着 (全面接着施工法)

各シート床材の専用接着剤を下地全面に塗布します。接着剤のオープンタイムを取ってから、シート床材を貼り込みます。シート間の継ぎ目は隙間を空けず、突き付けて貼り付けてください。

※必ず指定の接着剤をご使用ください。

また、標準使用量・オープンタイムは厳守してください。

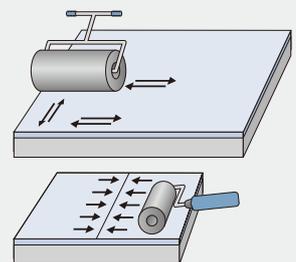
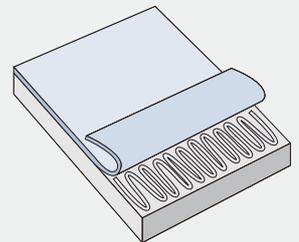
※P-P施工法はP.76を参照してください。

⚠ 専用接着剤には有機溶剤を含む商品があります。施工前に必ず商品に貼付のラベルやSDS等に記載の注意事項をお読みの上、正しく安全に施工してください。

## 5. シート床材の圧着

シート床材を貼り終えたらローラーをかけ、下地に圧着してください。特にジョイント部および端部は、ハンドローラーで入念に圧着してください。

※ローラーがけの方向をよく確認して正しく施工してください。間違った方向にローラーがけをすると、壁際や目地部の圧着不良をおこし、床材の収縮の原因となります。図の方向にローラーを十分にかけることが大切です。



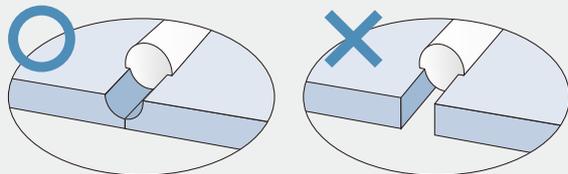
## 6. シート床材の溶接

目地溶接作業は、全面接着施工法で納めた後、12時間以上経過してから行なってください。

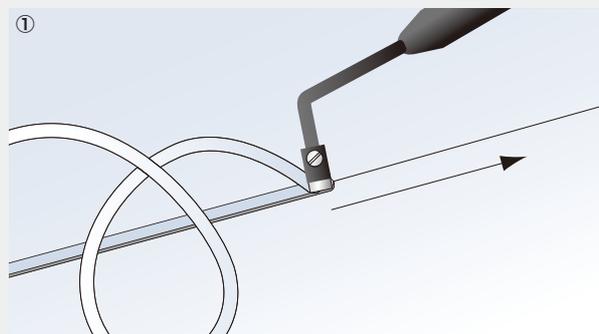
### ①目地切り

溝切りカッターを使い、床材の厚さ2/3程度をU字カットします。このとき必ず、床厚の1/3が残っていることが必要です。

※クッション層のあるレックスコート・レイジャー4.0・カルムパツソはクッション層の手前までをカットしてください。



※床材を透かし貼りした状態での溶接は絶対にしてしないでください。



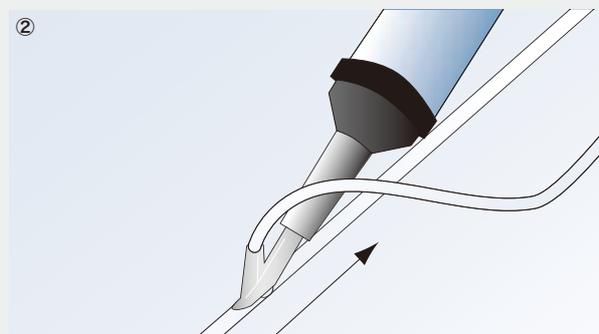
### ②溶接作業

溶接作業を開始する前に、溝切りした目地をよく清掃しておきます。専用目地溶接棒を溶接ノズルに差し込み、底部が床面と水平になるように角度を保ち、溶接棒の頭部がつぶれる程度の力を加えながら、溶接機を手前に引き、溶接作業をします。

#### [温度・スピードの目安]

商品名	温度	スピード
アンビانس コネクションコーロン・ニューテッセラコーロン レックスコート・レイジャー4.0・カルムパツソ	350°C~400°C	2m/分
アルトロセーフティフロア・アルトロアクエアラス	350°C	2~3m/分
ノラプラン	350°C~400°C	1~2m/分

- 製品の特性上、アンビانس・コネクションコーロン・レックスコート・レイジャー4.0・カルムパツソの溶接にはK-71溶接ノズルをご使用ください。
- ノラプランは、製品および溶接棒の材料性質上、一般的な塩ビシートと比較して溶接強度が出にくくなっています。溶接スピードには注意してください。

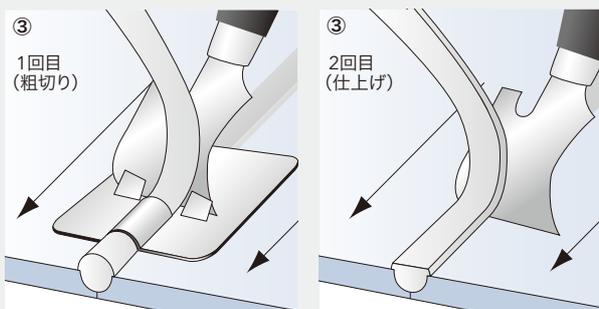


### ③目地仕上げ

溶接棒が冷えてから、床面に溶接済みの溶接棒にトリムガイドなどをあてがい、スパチュラナイフなどで2回に分けてカットします。1回目はトリムガイドにより粗切り(少し残す)されますので、2回目のカットで溶接棒を床面と同一の高さになるように丁寧に仕上げます。

※溶接棒が温かいうちにカットしたり1回で仕上げようとする、後で目地の中央部がやせてくぼむことがあります。

※ノラプランは、溶接棒が冷えたまま放置すると、溶接棒が硬くなりすぎてカットしづらくなる場合があります。



## 7. 引渡前のメンテナンス

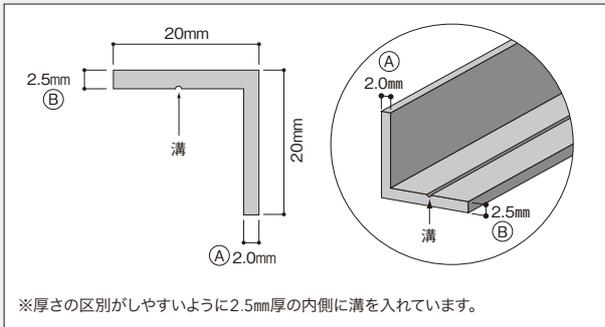
P.79~82「メンテナンス」を参照ください。

# 施工法

## アルト口防滑床材－PVCアングル工法 (グレーチング廻りの施工)

アルト口防滑床材を排水用グレーチング廻りに施工する場合は、専用副資材「PVCアングル (P.66参照)」を使用して納めます。アルト口防滑床材とPVCアングルを溶接することで、シート端部からの水分の回り込みを防止し、シートのはがれも抑制します。

### [PVCアングル形状]

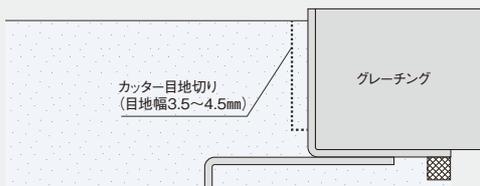


### 1. カッター目地切り

グレーチング受枠金具に沿って、ディスクサンダーなどで下地にカッター目地を入れます。必要に応じて下地補修を行なってください。

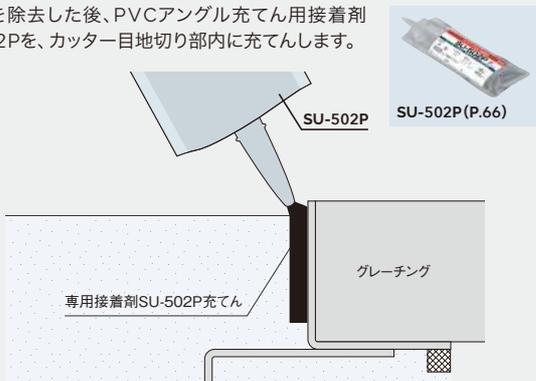
※カッター目地幅は3.5～4.5mmを目安としてください。目地幅が広すぎる場合、PVCアングルのはがれ等の原因となりますのでご注意ください。

※グレーチング出隅部でカッター目地がはみ出た部分は、PVCアングル取り付け前に下地補修を行なってください。



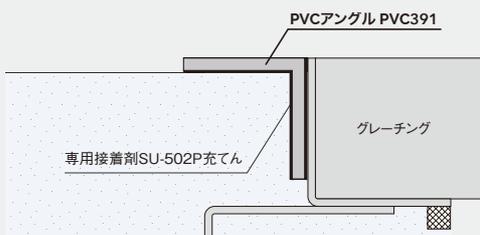
### 2. 接着剤充てん・PVCアングルの挿し込み

ホコリを除去した後、PVCアングル充てん用接着剤SU-502Pを、カッター目地切り部に充てんします。



※接着剤の充てん量が不足している場合、PVCアングルのはがれ等の原因となりますのでご注意ください。

接着剤を塗布後、PVCアングルをカッター目地切り部に挿し込みます。挿し込み方向は、アルト口防滑床材の厚さにより異なります。



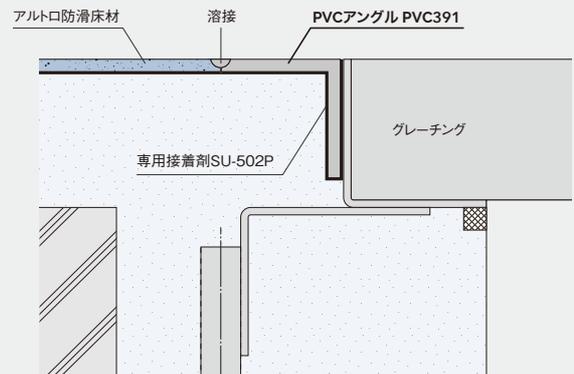
### [PVCアングルの挿し込み方向]

D-25・X-25 (2.5mm厚)	①側を挿し込み
VM-20・アルト口アクエリアス (2.0mm厚)	②側を挿し込み

※商品によっては別途施工要領書をご用意していますので、施工前にお問い合わせください。

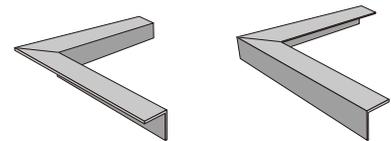
### 3. 溶接

アルト口防滑床材貼り付け後、12時間以上経過後に、PVCアングルとアルト口防滑床材ジョイント部を溶接してください。PVCアングルどうしのジョイント部も必ず専用目地溶接棒WR81 (PVCアングル PVC391同色) で溶接してください。



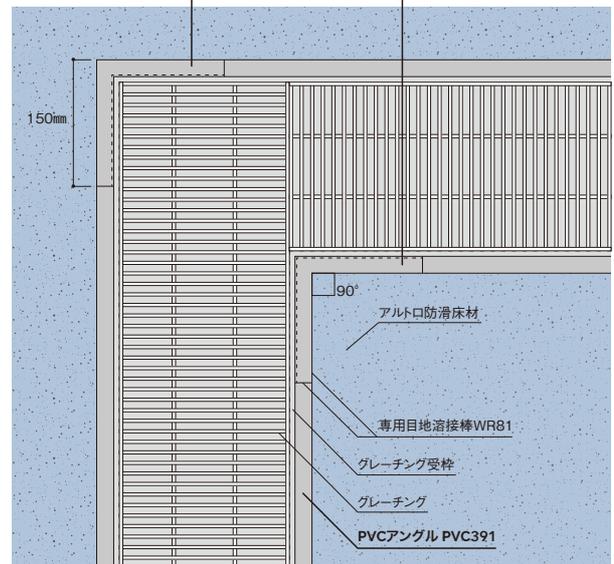
### [出隅部・入隅部の納まり]

出隅部・入隅部はPVCアングルコーナー材を使用して納めます。



PVCアングルコーナー材 出隅用  
PVCD39 (2.5mm厚)  
またはPVCD392 (2.0mm厚)

PVCアングルコーナー材 入隅用  
PVC139 (2.5mm厚)  
またはPVC1392 (2.0mm厚)



※グレーチング入隅部、集水枘接合部などは、実際部分にカッター目地を深く入れる事ができません。そのため、PVCアングルコーナー材は、カッター目地深さに応じて不要部分を切り捨て、挿し込みします。